

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3571200231		
法人名	社会福祉法人 恒和会		
事業所名	グループホーム ゆうわ苑		
所在地	山口県柳井市伊保庄字近長浜1-4		
自己評価作成日	平成29年1月30日	評価結果市町受理日	平成29年6月30日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成29年2月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入所者・入所者家族・職員を含め、大家族で生活しているという考え方のもとで、個人の能力を生活に活かし、個人に合った生活ができるよう職員全員で努めています。また、季節感のある工作物の作成や定期的なお菓子作りなどを行事に入れ、職員共々楽しめる空間作りを心掛けています。地域とのつながりも大切にしており、地域のお祭りや運動会などに参加しボランティアの方も行事へ参加していただいています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員は、事業所理念の中にある「その人らしい生活」を常に意識され、絵馬づくりや羽子板づくり、季節の壁飾り、居室のドア入口の飾りづくり、新聞紙を使ったゴミ箱づくり、雑巾縫いなどの手作業の他、ボール遊びやボーリング、シャボン玉遊び、かるた、すごろく、福笑い、計算ドリル、漢字ドリル、各種ゲームなど、利用者の思いやできることを把握され、楽しみごとや活躍できる場を沢山つくって、張合いや喜びのある日々が過ごせるように支援しておられます。食事は法人の厨房からの配食を利用しておられ、ご飯と汁物は事業所で用意され、畑で収穫した野菜を利用して一品料理をつくられたり、おやつづくりでは畑で採れた芋を使ったチップづくりや芋プリンなどの他、月見団子や冷やしぜんざい、チョコレートづくりなどを楽しまれ、家族と一緒にの花見では五目寿司をつくられたり、ファミリーレストランやパン屋でのカフェツアーを楽しむなど、食べることの楽しみを工夫されて、食事が楽しみなものになるように支援しておられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる ○	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている ○
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある ○	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている ○
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている ○	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている ○
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている ○	67	職員は、生き活きと働けている ○
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている ○	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている ○	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている ○		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域の皆さんと少しずつ交流を持ちながらその方らしい生活を送って頂く」という理念を事業所内に掲示し、職員全員が意識して行っている。	地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を事業所内に掲示している。職員は朝礼時に唱和して共有し、今までの暮らしを大切にしてい、その人らしい生活を送ってもらえるよう、理念の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	法人全体の行事(納涼祭り、元気祭り)の他、地域の清掃活動や神明祭りに春祭りと地域の行事に職員・利用者が参加して交流している。	年1回の地域の清掃活動に職員が参加している。利用者は、地元の春祭りや神明祭り、中学校の運動会の見学に出かけている。法人主催の納涼祭りや元気祭りに参加して、地域の人と交流している。事業所に、親子コーラスや傾聴ボランティアが来訪している。法人主催のオレンジカフェや認知症サポーター養成講座の講師を務めている他、地域と合同で徘徊模擬訓練を実施している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人全体でオレンジカフェ、公民館や小・中学校で認知症サポーター養成講座等を開催している。また、地域と合同で徘徊模擬訓練の実施もしている。	/	/
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価の意義を伝え、自己評価表を職員全員に配布し意見をまとめ改善している。	評価の意義をチーフが職員に説明し、評価するための書類に全職員が記入したものをチーフがまとめている。評価の意識を説明し課題を明確にするよう取り組んでいるが、職員の項目の理解に個人差があり、評価を活かした具体的な改善に取り組むまでには至っていない。	・評価の意義の理解 ・評価を活かした改善への取り組み
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヶ月に1回行い、活動や現状報告の他、意見交換を行いサービス向上に努めている。	会議は年6回開催し、事業所の活動、利用者の状況報告、行事予定と報告、ヒヤリハットや事故の報告等をして、意見交換している。会議をサービスの向上に活かしているとは言えない。	・会議を活かした工夫 ・メンバーの検討

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	法人の地域連携室と協力体制にあり、運営推進会議により報告連絡を行っている。	市担当者とは、運営推進会議出席時や直接出向いたり、電話で相談して助言を得ているなど、協力関係が築くように取り組んでいる。事業所が抱えている課題等については、法人の地域連携室を通して相談し助言を得ている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	人権尊重委員会を設けており、身体拘束の研修を行っている。解放できるドアは時間を決めて開放している。	身体拘束について、法人研修で学び、職員は理解して、抑制や拘束のないケアに努めている。玄関の施錠はオートロックになっているが、利用者が外に出たい時は声をかけ寄り添い、時には気分転換に外に出るなど閉塞感を持たないように配慮している。スピーチロックについても職員は理解し、気になる場合には、チーフが助言し、指導している。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止について委員会で勉強会を実施し、理解を深め、各部署で防止に努めている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人では様々な勉強会を実施しているが、現在各制度による支援を必要としている該当者がいないこともあり、権利擁護の勉強会は実施していない。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	書面を利用し、各家族に十分な説明と契約を行っている。契約書の改訂があれば重要事項説明書を更新し、家族に説明をしている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関先に苦情相談受付責任者を掲示し、意見箱を設けている。	相談や苦情の受付体制や処理手続きを定め、契約時に家族に説明している。面会時や運営推進会議出席時、誕生日会や事業所の行事(納涼祭、花見会)への参加時、電話で家族の意見や要望を聞いている。毎月の事業所だよりに利用者を担当している職員が、利用者の様子を記入して送付するなど、家族からの意見や要望が出しやすい雰囲気づくりに努めている。利用者のケアに関する要望にはその都度対応している。運営に反映させるまでの意見や要望は出ていない。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から報告連絡相談を密に行い、口頭や連絡ノートを活用している。	月1回のミーティングで、職員から意見や要望を聞く機会を設けている他、日常業務の中でチーフが職員から意見や要望を聞いている。年に2回、チーフが職員の目標の達成状況と併せた個人面接を実施している。職員の意見や要望は、チーフが法人の運営会議に出席し伝えているが、運営に反映するまでの提案は出ていない。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人内で年2回人事考課と目標管理を行い、職員の個々の努力や実績を評価するとともに通常業務においても職員の向上心に配慮した業務配分を行うように努めている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内に職員育成委員会を設け、年間を通じて様々な職員研修を計画的に実施し、外部研修の機会も必要に応じて設けている。	外部研修は、職員に情報を伝え、受講の機会を提供している。法人内研修は、毎月1回テーマを決めて開催し、「緊急時の対応、身体拘束防止、口腔ケア、認知症を取り巻く今を知ろう」などに希望者が参加している。外部研修や法人研修に参加した職員は報告書を作成し、勉強会を実施して職員で内容の共有に努めているが、職員一人ひとりの資質の向上への取り組みとしては十分とは言えない。	・計画的な研修の実施
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修や交流会があれば今後参加するように努める。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前には法人内であれば本人や家族とお話する機会を設け、関係づくりに努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談からご利用までに連絡を取り、話を聞き、関係づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームは施設の性質上相談を受け即入所できない場合が多いため、早急な支援が求められる場合には、他施設サービスや在宅サービスについても説明している。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で食事の準備・片づけ・洗濯物たたみ・干し・季節の壁飾りの作成などをできる限り一緒に行い、大家族として一緒に生活しているという関係づくりに努めている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃から何でも話しやすい雰囲気づくりを心掛けるとともに、定期的にご様子を報告し、年数回ある家族の参加行事を行い、利用者・家族・職員の信頼関係が築けるよう努めている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族とも話し合いながら、苑でできる範囲の対応と家族の対応を両立させ、できるだけ自由に外出できるように支援している。	家族の面会、親戚の人や知人、後輩の来訪がある他、年賀状や手紙のやりとり、電話の取次ぎの支援をしている。、法人の行事に参加している近所の顔なじみとの交流がある。家族の協力を得て、法事や葬儀への出席、墓参り、選挙、美容院の利用、一時帰宅、外食、買い物に出かけているなど、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援している。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや体操など皆さんと過ごす時間を設けている。入居者同士会話をしているところも見られるが、聞き違いなどからトラブルになりそうなときは、必要に応じて仲裁・見守りをするよう努めている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ホームの近隣の病院など入院されている方には折を見てお見舞いに出かけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	はっきりと意思表示されない場合でも、日々の関わりの中での言動から意向の把握に努めている。	入居時のフェイスシートや利用者及び家族からの基本情報を活用している他、日々の関わりの中での利用者の言葉や行動を介護記録に記録し、職員間で共有して、思いや意向の把握に努めている。利用者からの把握が困難な場合は、家族から聞き取り、職員間で話し合っており、本人本位で検討している。	・思いや意向の把握の工夫
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に生活歴などを家族から聞きまとめ、日々の関わりの中での言動から、意向の把握に努めている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の関わりの中での言動から意向の把握に努めると共に、家事や作業を分配したりと1日の過ごし方を考えている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	2月に1回カンファレンス・モニタリングを行い、入所者のケアの内容について情報交換、検討している。	2か月に1回カンファレンスを開催し、利用者の意見、家族の要望、主治医や法人の看護師、理学療法士、作業療法士の意見を参考にして話し合い、介護計画を作成している。2か月毎にモニタリングを実施し、6か月毎に見直しをしている他、本人の状態に変化が生じた場合は、その都度話し合い、現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人の詳しい言動やそれに対する職員の対応を個別記録に記入し、朝・夕の申し送りや活用し介護経過に役立てている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	月に1回程度の行事の実施や車での外出、個別の要望にもできる限り応じ、グループホームだからこそできる支援の充実に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	法人を通じて協働している。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時、地域にかかりつけ医がある方は引き続き利用され、特にない方は協力医療機関をかかりつけ医とし1か月に1回程度の定期受診、得返事も対応できるようにしている。	事業所の協力医療機関の他、利用者や家族が希望する医療機関をかかりつけ医としている。他科受診は家族の協力を得て支援をしている。受診時には、情報交換用の受診ノートを持参している。訪問歯科診療があり、希望により口腔ケアが毎週受けられる。法人の看護師が毎日来訪し、健康相談や必要な処置を行っている他、緊急時にも法人看護師と連携し、速やかな対応に努めるなど、適切な医療を受けられるよう支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人の看護職員と連携を取りながら、日常の健康管理を支援している。法人内の看護部が毎日チェックしている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	本人のお見舞いも兼ねて直接情報交換や相談に行くと共に、家族とも随時連絡を取りながら退院時のスムーズな受け入れができるように努めている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日常的に医療行為や管理が必要となった場合には対応が困難なため、華族と話し合い医療機関の入院が主となっているが、重度化についてはどこまで対応できるかが曖昧なため、家族と協議し検討している。	契約時に、事業所ができる対応について家族に説明をしている。重度化した場合には、主治医や看護師、家族と話し合い、入所施設や医療機関への入院や移設の紹介を含めて、結果に応じた方針を決めて、全員で共有し、支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	法人に委員会が設けられており、事故防止に取り組むと共に応急手当ができるよう職員は、消防署の救急救命講習を受けに行っている。	事故報告書、ヒヤリハット報告書は、その都度、発見者が記録し、申し送り時に報告し、情報を共有している。月1回のミーティングで再度話し合い、法人内の事故防止委員会に報告して、検討し、再発防止に取り組んでいる。事故発生への対応については、緊急対応マニュアルを整備し、消防職員による救急救命講習を受講しているが、職員全員が実践力を身につけるまでには至っていない。	・全職員が実践力を身につけるための応急手当や初期対応の訓練の実施 継続
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を行い部署の具体的な避難方法について学んでいる。法人を通じて地域の方に協力が得られるように努めている。風水害の訓練も現在検討している。	年2回、法人全体の総合訓練として、昼夜間を想定した火災訓練を実施し、避難訓練、消火訓練、通報訓練、避難経路の確認を利用者と一緒に行っている。風水害対策マニュアルを作成しており、法人の建物は、災害時の地域住民の避難場所となっている。法人全体として備蓄を用意している。訓練には地域の消防団が参加しているが、地域住民との連携までには至っていない。	・地域との協力体制の構築
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々の関わりのなかで(トイレ介助・入浴等)言動に配慮している。ケース記録は人のいない目につかないところで記録している。	職員は、接遇研修で学び、理解しており、利用者一人ひとりのプライバシーや人格を尊重し、言葉づかいにも気をつけて、人生の先輩として尊厳を傷つけない、言葉かけや対応をしている。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の関わりの中や個人の生活リズムを理解し、希望の自己表出や自己決定できるように声掛けをするように努めている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床・入浴・食事・就寝時間は大まかに決められているが、その時々体調や希望により臨機応変に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容院は家族対応で馴染みのお店に行かれたり、苑の利用サービスを利用している。行事や外出日は前日に洋服を選んだり、お化粧をしたりと気分を盛り上げている。本人の意見確認を行いながら支援している。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ご飯やみそ汁おかずの盛り付け・食事・片付けを利用者と職員が共に行っている。法人の厨房から決まった献立が調理済みでもらえるが、アレルギーや好みによる食材の変更・形状の変更も可能となっている。	食事は法人の厨房からの配食で、ご飯と汁物は事業所で用意している。畑で収穫した野菜(大根、カブ、キュウリ、ナス、トマト等)を利用して一品料理をつくることもある。利用者の状態に合わせて、お粥やきざみ食、ミキサー食など食事の形態を工夫している。利用者は、食事の盛り付けやテーブル拭き、下膳、食器洗い、お盆拭きなど、できることを職員と一緒にしている。利用者と職員は同じテーブルを囲み同じ食事をとり会話を楽しんでいる。おやつづくり(畑で採れた芋を使ったチップづくりや芋プリン、月見団子、冷やしぜんざい、チョコレート)や家族と一緒にの花見での五目寿司づくり、ファミリーレストランやパン屋でのカフェツアーを楽しんでいるなど、食べることの楽しみを工夫している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に応じた栄養バランスとなっており、日中や夜間も細やかな水分補給を行っている。毎日の体重や食事量もその都度記録し、状態の変化の把握に努めている。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	1日3回の毎食後のうがい、夕食後の歯磨きの声掛けを本人の能力に合わせて行っている。義歯は夕食後預かり、ブラッシングを行い、毎日ポリデントで洗浄している。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄記録を活用し、一人ひとりの状況にあった声かけや誘導を行うことで、排泄の失敗が少なくなるよう努めている。なるべくおむつや紙パンツのしよりよを減らすように努めている。	職員は、日常生活記録表を参考にし、時間を見図りながら、利用者一人ひとりに応じた声かけや誘導で、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	原因について話し合い、飲食物・運動・服薬なども工夫している。排便兵尿状況についても記録している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は月曜日～土曜日まで毎日14時～17時まで入ることができ、入浴剤やハーブを入れ、香りを楽しんで頂いている。日曜日や入浴されない方は清拭を行っている。	入浴は、日曜日以外の14時から17時までの間可能で、利用者の希望や体調に合わせて支援している。利用者の状態により清拭やシャワー浴、足浴などへの対応や入浴剤やゆず湯を使って香りを楽しんでいる。入浴したくない利用者へは、声かけの工夫や職員の交代、時間の変更など、個々に応じた入浴を支援している。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中昼寝希望する方はされ、夜間は本人にまかせ、体調や生活習慣に合わせ入眠を促している。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の担当を決め、担当を中心に薬の管理を行っている。カルテに服薬情報を入れ、変更があれば申し送りを行い、全職員が把握に努めている。必要時には主治医及び薬剤師に本人の状態(日々の血圧等)など書面や家族を通して情報提供している。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の準備や後片付け・洗濯・花の手入れ等、生活歴などを重視し、個人の得意分野を活かせるよう支援している。	ぬり絵、ちぎり絵、折り紙、書き初め、絵馬づくり、羽子板づくり、季節の壁飾りづくり、居室の入ロアの飾りづくり、新聞紙を使ったゴミ箱づくり、雑巾縫い、野菜の収穫、洗濯物たたみ、おやつづくり、食事の準備、ボール遊び、ボーリング、シャボン玉遊び、かるた、すごろく、福笑い、計算ドリル、漢字ドリル、ゲーム、テレビの視聴、新聞の購読、歌を歌うなど、楽しみごとや活躍できる場面づくりをして、利用者が気分転換を図り、張り合いのある生活が送れるように支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	気候が穏やかな日には外に出て散歩や畑の手入れを楽しんでいる。2月に1回程度のドライブなど外出支援を行っている。	近隣への散歩や買い物、畑の手入れ、地域の祭りへの参加の他、花見(桜、つつじ)や、ファミリーレストラン、パン屋さんに出かける他、家族に協力を得ての法事や墓参り、馴染みの店での買い物や外食、外泊などの外出を支援している。	・外出支援の工夫

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人の金銭所持はトラブルの原因になるため認めていない。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望時には電話をしたり、家族等からの手紙が届いた際は渡している。家族が持ってこられることもある。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った壁飾りや小物を作成・設置したり、日向ぼっこができるスペースをつくったり、花を生けたりと見た目にも楽しい雰囲気作り、音楽・照明は入所者の意向を確認しながら調整している。季節に応じ加湿器も使用している。	緑の木々や外の風景を眺めることのできる大きな窓のあるリビングダイニングは明るく、中央にテーブルがあり、自由に配置換えできるようにしてある。畳スペースには大型テレビを配置し、テレビの前のソファで、利用者同士でくつろいでいる。室内には、節句の飾り物、壁には利用者が作成した季節の作品を掲示している。音楽や照明を調整し、室温や湿度、換気に配慮して、居心地良く過ごせるような工夫をしている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用の空間には居間を思わせるようなテレビやソファ、畳スペースを設置し入所者が思い思いに過ごせるよう工夫している。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の馴染みのある小物や小タンスなど持ち込み自由で、壁面や居室には苑で作成した作品の他、写真なども飾っている。バッド・棚・カーテンは備えつけのものを使用している	使い慣れた寝具や衣装がけ、テーブルや椅子、時計などを持ち込み、家族写真やスナップ写真、人形、自分で作った作品などを飾って、利用者が安心して暮らせるよう工夫をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	床はバリアフリー設計になっており、廊下・手すりを設置している。浴室は一般浴槽の為個人の身体能力に合わせて支援している。		

2. 目標達成計画

事業所名 グループホーム ゆうわ苑

作成日：平成 29 年 6 月 27 日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	評価の意義は職員へ説明したが、職員の理解に個人差があり評価を活かせていない。	評価の意義を理解し評価を活かした改善へ取り組む。	月一回のミーティング時に山口県地域密着型サービス評価項目ガイド集を読み進める。	1年間
2	5	年6回の運営推進会議を実施しているが推進委員のメンバーの検討が必要である。	利用者家族代表と地域住民代表の委員を増員する。	利用者家族代表と地域住民代表の委員を選出し理事会で承認を受け正式に依頼する。	1年間
3	14	法人内で年間職員研修を計画し実施しているが、職員一人ひとりの資質の向上への取り組みとしては十分とは言えない。	各自研修受講後速やかに研修報告書を提出する。	毎月実施されている法人内研修を受講する。勤務の都合で受講できない職員は、研修資料を読み研修報告書を提出する。	1年間
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。